

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.117) 2021/4/20

目次

1. 第47回大会に向けて
2. 11月理事会報告
3. 3月理事会報告
4. 定例研究会の報告(関西)
5. 看護・ケア研究部会報告
6. 編集後記

---

1. 第47回大会に向けて(中村英代大会長)

第47回日本保健医療社会学会大会〔5月15日(土)～16日(日)〕はオンラインで開催いたします。

「新型コロナウイルス感染症と社会」を大会テーマとし、学会内外の、特にこの領域でのご研究とご発信で高い評価を受けている先生方にご講演をお願いいたしました。美馬達哉先生(立命館大学)による「保健医療社会学と新型コロナウイルス感染症(リアルタイム配信)」、武藤香織先生(東京大学)による「新型コロナウイルス感染症対策に関わって(動画配信)」、そして山本太郎先生(長崎大学・非会員)による「コロナ時代の羅針図(動画配信)」です。その他、シンポジウム「回復の語りとコミュニティ(リアルタイム配信)」では南保輔先生(成城大学)・矢原隆行先生(熊本大学)・野口裕二先生(東京学芸大学名誉教授)にご登壇いただきます。

本大会で特別にご用意させていただいた企画は、1)大会会期中常時オープンの Spatial Chatによる談話室と、2)5月15日(土)夕方開催のオンライン懇親会です。オンライン大会は参加者同士の交流が不足しがちだという限界を抱えていますが、こうした新しい試みはそうした限界への挑戦でもあります。しかもスタッフが限られた本大会校で、なぜ、談話室を大会会期中「常時」開設させていただくのか。それは、豊かな時間のなかでの多様な人々同士のコミュニケーションは、個別の研究の推進から学問コミュニティの形成に至るまで非常に大きな貢献を果たすと考えるためです。本大会は、地域や国境を超えた交流の場としてもご利用いただけるのではないのでしょうか。オンライン会場にて、たくさんの方のご参加を心よりお待ちしております。

2. 11月理事会報告(松繁理事)

日時:2020年11月16日(月) 13:00~16:00

会場:ZOOM会議

出席者:朝倉会長、松繁理事、蘭理事、中山理事、前田理事、天田理事、清水理事、武藤理事、山中大会長(第46回)、中村大会長(第47回)、事務局平野(記 国際文

献社)

欠席者：本郷理事、戸ヶ里理事

1. 第46回大会報告(第46回山中大会長)

山中第46回大会長より第46回大会の報告があった。収支に関する暫定報告があり、承認された。

2. 第47回大会について(第47回中村大会長)

中村第47回大会長より企画案について報告があった。また、予算案について確認を行った。

3. 2020年度前期予算執行状況(松繁理事)

松繁理事より配布資料の通り10月末時点での予算執行状況について報告があった。収入に関して例年通り推移していることの説明があった。

4. 編集委員会報告(天田理事)

天田理事より9月末締め論文投稿についての報告があった。31巻2号は大会特集号となり、32巻1号は編集委員会企画を進めていることが伝えられた。

5. 定例研究会の報告(関東)(中山理事・前田理事)

中山理事より看護・ケア研究部会との共催企画について計画中であることが伝えられた。

6. 定例研究会の報告(関西)(蘭理事)

蘭理事より2月27日にZOOMで開催する予定であることが伝えられた。内容が確定次第、メール配信を行うこととした。

7. 看護・ケア研究部会の報告(清水理事)

清水理事よりオンラインで定例会を11月に開催したこと、次回の開催予定について報告があった。

8. 渉外・国際交流活動の報告(武藤理事)

武藤理事より翌年のセミナー開催企画、および東アジア保健医療社会学会の開催予定について報告があった。

9. 規約の改正について(朝倉会長)

朝倉会長より常勤職にない会費減額についての提案があり、質疑・検討をおこなった。

10. 園田賞選考委員会について(中山理事)

園田賞について、引き続き中山理事が選考委員長となることが確認され、今後、資格問い合わせ等の作業を行っていくことが伝えられた。

11. 国際文献社への事務委託契約について(松繁理事)

松繁理事より事務委託契約の変更点について説明があり承認された。

12. 名誉会員推挙について(松繁理事)

松繁理事より名誉会員推挙についての候補者が伝えられ、朝倉会長から候補者へ意向を確認することとした。

13. 役員選挙について (朝倉会長・松繁理事)

朝倉会長よりオンライン選挙導入に関する提案があった。複数業者への相見積りの結果等について会長と総務理事で検討することとなった。

14. 医学教育コアカリキュラムへの対応について (天田理事)

天田理事より本件について会員数名でワーキンググループを作り、課題抽出を行い、次期へ引き継ぐ旨、報告があった。

15. ニューズレター116号の配信について (清水理事)

清水理事より今後のニューズレターの発行予定について報告があった。

16. 入退会者の承認について (松繁理事)

松繁理事より新入会者13名の承認依頼があり、承認された。

以上

### 3. 3月理事会報告

日時：2021年3月9日(金) 14:00~17:00

会場：ZOOM会議

出席者：朝倉会長、松繁理事、蘭理事、中山理事、前田理事、本郷理事、戸ヶ里理事、天田理事、中村第47回大会長、事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：清水理事、武藤理事

1. 2021年度大会時評議員会・総会・理事会の議題と資料の作成について(朝倉会長)

朝倉会長より次回理事会にて総会議案書と評議員会の議題を確認することが提案され、承認された。

2. 規約の改正について(朝倉会長)

朝倉会長より規約の改正に関わる申請書一式について確認があった。各申請書に役員の選挙権・被選挙権の有無について記載したほうが良いとの意見があり、追記することとした。

3. 園田賞(学会奨励賞)候補について(中山理事)

中山理事より園田賞受賞者の候補について評価が一番高かった原著論文が推薦され承認された。次回総会で発表され、表彰される。

4. 次期役員選挙結果について(朝倉会長)

朝倉会長より理事と監事の役員選挙結果報告があった。監事については上位2名より内諾が得られたとの報告があった。

5. 編集委員会報告(戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より今期編集委員会のうちに機関リポジトリ、博士論文の投稿に関するルールを定める予定であることが伝えられた。

6. 定例研究会の報告(関東)(中山理事)

今期は開催がなかったとの報告があった。

7. 定例研究会の報告(関西)(蘭理事)

蘭理事より2月27日に関西定例研究会をZOOMで開催したとの報告があった。ZOOMにしたことで参加者数が例年より多いことが伝えられた。

8. 2020年度決算案及び来年度予算案について(松繁理事)

松繁理事より決算案について報告があった。収入に関しては例年通りであること、支出については郵送費が論集特別号と1号を同送したことにより費用が抑えられていること、交通費の支出が発生しなかったとの説明があった

9. ニューズレター117号の配信について(清水理事)

後日、各理事より原稿を集め配信することとした。

10. 入退会者の承認(松繁理事)

松繁理事より新入会者30名の承認依頼があり、承認された。

11. 第47回大会の予算・進捗状況について(中村第47回大会長)

中村第47回大会長より予算と進捗状況について報告があった。

12. その他

天田理事より医学教育コアカリキュラムのワーキンググループについて今週から来週にかけて順次、会員へ依頼することが伝えられた。研究活動委員会と大会校の業務分担を整理したほうが良いとの意見があり、次期へ引き継ぐこととした。

以上

#### 4. 定例研究会の報告(関西)

2月27日(土)13時30分から16時10分までZoomにて開催した。

テーマは、「ハンセン病療養所の自治を考える」とし、歴史学の松岡弘之さん(非会員:岡山大学大学院社会文化科学研究科)に「近代日本のハンセン病療養所における『自治』とその射程」と題する報告を、会員の坂田勝彦さん(東日本国際大学)に「戦後のハンセン病療養所における『自治』の隘路—多磨全生園患者自治会の閉鎖と再建を巡って」と題した報告をしていただいた。

松岡さんは、自著『ハンセン病療養所と自治の歴史』(みすず書房、2020)にもとづいて歴史学研究の立場から、ご自身のフィールドである、岡山県瀬戸内市長島に設置された邑久光明園(前身は外島保養院@大阪府)と長島愛生園の「自治」の開始・展開過程と、両園の相違、そして「自治」の意味について考察された。坂田さんは、自著『ハンセン病患者の生活史』(青弓社、2012)で研究された多磨全生園の戦後の自治会を対象に、あらためて一人の入所者の論考を読み解いていくことで、自治会が閉鎖され再建される過程がどのような文脈のうちにあったのかについて明らかにされた。

いずれのご報告も、患者/病者たちによる「生」をかけた主体的な行為があり、それが一般社会の構造や変動とともに展開していること、療養所世界は決して社会と「断絶」して

きたわけではないことを教えてくれた。

フロアからも、地域文化と療養所との関係やジェンダーの視点、現在の新型コロナウイルス感染症との関係、公衆衛生のあり方についての質問やコメントが寄せられ、盛会のうちに終了した。参加人数は、Zoom開催のメリットで広域から参加があり、38名を数えた。

## 5. 看護・ケア研究部会報告 (清水理事)

### 1) 第2回定例研究会報告

日時：1月23日(土) 14:00~17:00

場所：オンライン (Zoom)

第1報告：「看護実践と成りゆく『ふるまい』—動きづらい身体との応答—」(齋藤貴子さん：日本赤十字秋田看護大学)

概要：運動器領域の看護実践を現象学的研究にて記述したものの一部を報告した。本報告は「言語化しづらい」看護実践が通底するテーマであり、それに沿って論旨の一貫性を整えたほうがよいという様々なご示唆をいただいた。結果の「ふるまい」そのものが応答であり看護実践と成りゆく点については、参加者より共感を得られたが、運動器領域の特徴が曖昧であり、コントラストをつけた記述への意見があった。その他、具体的かつ戦略的なご示唆があり、今一度論文の構成を練り直して参ります。

第2報告：「社会的問題があり繰り返し救急外来受診する患者への対応」(吉田澄恵さん：東京医療保健大学)

概要：「社会的問題があり繰り返し救急外来を受診する患者への対応」と題して、研究者らの救急外来における対応経験に端を発した文献レビュー経過を報告した。セルフネグレクト、社会的処方、社会的排除などに関する議論や、問題解決モデルで状況を解釈することの限界、救急外来看護と社会福祉協議会の連携の可能性、医療モデルにおける健康管理を促進するという意味でのケアと異なるケアのあり方などについて意見交換があり、今後の文献レビューならびに研究の方向性への示唆があった。

### 2) 第3回定例研究会報告

日時：3月13日(土) 14:00~17:00

場所：オンライン (Zoom)

「糖尿病手帳をつける経験の現象学的研究—手帳の存在論的検討の試み」

(細野知子さん：日本赤十字看護大学)

糖尿病手帳をつける経験を、手帳をつける時に生じるつぶやきの記録とともに明らかにした内容を報告した。質疑応答を通じて、認識論/存在論という用語を持ち込むことで本研

究の目的が見えづらくなること、糖尿病医療に向かう本研究の立ち位置を明確にすることなどの課題が見えてきた。活発な議論により、糖尿病手帳をつける主体と手帳との関係、数値を記録するという経験の特徴、糖尿病手帳を媒介した相互行為など、多様な経験をまとめていく方向性に有意義な示唆が得られた。さらに、保健医療社会学領域への論文投稿、本知見が可能な糖尿病ケアへの貢献についても貴重な示唆を得た。

## 6. 編集後記

5月に開催する大会の準備も進んでまいりました。この1年、世界中の誰もが悩み苦しみ、考えを巡らせてきた COVID-19 が大会のテーマです。今年もオンライン開催となりますが、会員間の交流の場の設置も試みておりますので、どうぞご利用ください。

会員総会では、会員資格に係る規約の改定が予定されております。学会の将来に向けた内容となりますので、多くの会員にご参加いただきたいと思います。

発行：日本保健医療社会学会      編集：広報担当 (清水準一)

学会事務局： 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp      TEL：03-6824-9375